

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 5年 3月 10日

事業所名 児童デイサービスまはろ宮野済志真志

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	17	0	0	療育室等の使い分けをしている。	利用児童が多いときは圧迫感や療育に当たるスタッフの不足感有。今後高学年低学年を分けるなどの対応を念頭に置き、引き続き療育室の利用を工夫する。
	2	職員の配置数は適切である	17	0	0	配置基準は満たしているが、活動によっては他事業所に応援依頼をしている。	今後も療育室の使い分け等の工夫、他事業所と協力しながら対応を行う。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8	6	3	標準化されたコミュニケーションツールを使用している。	トイレの手動照明や多少の段差などまだまだ改善が必要な部分はあるが、大きくバリアになるような場面はない。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	10	1	多くの職員が参加するケース会議等の開催。	会議等に参加出来ないスタッフの共有は現在、会議録の書面にて確認を行っているが、その会議に出席していないスタッフへの周知が不足しているため、今後はより丁寧な共有も必要。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	13	4	0	会議等で周知、改善策を検討している。	業務改善に必要なご意見には対応できる環境を更に整えていく。現在行っていない保護者会などの実施も視野に入れ業務改善を行う。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	9	0	毎年公開している。	公開しているが職員への周知がなされていないため、徹底していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	9	0	毎月、第三者評価をしている。	実状に対する改善や、事業所が抱える問題などを相談できる第三者会議を毎月行っているが、管理者のみ参加のため、今後その内容等を共有あるいは他職員も参加していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10	7	0	社内外の研修案内を広く周知している。	研修は原則、希望者のみの参加となるため、職員によって積極性は異なる。広く参加してもらうために職員の意識向上にも努めていく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	17	0	0	児童発達支援管理責任者をはじめ計画立案にめ会議等で多くの職員が参画している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	8	0	標準化されたアセスメントツールを使用している。	アセスメントは児童発達支援管理責任者が主に行っているため、標準化されたアセスメントツールを多くの職員が使用できるように育成していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	15	2	0	多くの職員が参加する定例会議で行っている。	月ごとの活動における会議を実施しチームで活動考案にあたり2か月前の時点で大まかな活動の予定作成に当たっている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	12	4	1	多くの職員の提案を取り入れている。	固定化されたSSTやスポーツカリキュラム等のプログラムは内容を工夫し、それ以外の課題は療育を意識したものや、地域の外部講師が行うものなど様々なことを行っており、今後も継続していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	15	2	0	多くの職員の提案を取り入れている。	上記のプログラムにおいて、長期休暇、休校日などは外出など平日では行えないプログラムを多数取り入れており、今後も継続していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	13	4	0	児童の自立度に応じ個別及び集団活動において計画している。	集団活動での個別支援のほか児童の状況や保護者の要望により言語聴覚訓練等を行っているが、常時行える状況ではないので環境を整備していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	15	2	0	朝礼で行っている。	すべてのプログラムは計画書により、内容、役割が決められている。それ以外の支援についてはより精度を上げていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	5	4	終礼の実施や、アプリなどを活用し共有している。	共有不足について、質の高い内容、仕組みをつくっていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	14	2	1	実績表、経過記録表の記入し改善に役立てている。	共有不足について、質の高い内容、仕組みをつくっていく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	15	1	1	実施している。	児童発達支援管理責任者が行うため、それ以外の職員が実施していることを把握していないよう。周知していく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	10	6	1	地域等にも参画してもらっているプログラムも多く、総合的にいろいろな活動を行っている。	職員がガイドラインを理解できるように説明していく。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	13	4	0	全職員に状況を確認し参画している。	パート職員の意見も反映できるようにしていく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	15	2	0	保護者とも行っている。	急な変更などには対応が遅れることがあるため、今後は更に学校や保護者との連携を高めていく必要がある。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	9	5	現在医療的ケア児の利用は無いが、関係機関と情報共有や事例検討会などに努めている。	医療的ケア児の受け入れ時は環境整備を行っていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8	6	3	利用の際には、保護者や関係機関との事前情報の共有、相互理解の場を設けている。	個別ファイルの活用を促し共有を進めていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7	9	1	サービス移行の際も保護者を交え、関係機関との情報共有を行い、引継ぎの場を設けている。	サービス移行にあたる際には事前に移行先の事業所等へ情報共有ができるような態勢は整えている。移行後も移行先や対象児の相談やアドバイスに乗っていきけるような取り組みを行う。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	10	5	2	連絡会等の研修会議等に参加している。	一部の職員しか参加できていないため、広く職員が参加できる仕組みづくりおよび共有整備をしていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	10	4	地域の公園や公民館の利用をプログラムに取り入れている。	コロナ禍により積極的にできていないが状況に応じてより積極的に取り入れていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6	8	3	児童発達支援管理責任者連絡会等へ、ZOOMを活用して参加している。	管理者だけでなく他職員の参加も進めていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	15	2	0	送迎時や会議等の内容を共有している。	共有方法をより工夫していく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	10	3	送迎時や会議等で助言をしている。	より精度の高いペアレント・トレーニング、アドバイスをするため職員の育成を研修等を通じて強化していく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	12	5	0	行っている。	児童発達支援管理責任者が行うため、それ以外の職員が実施していることを把握していないよう。周知していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	12	5	0	送迎時や会議時以外にも架電で支援している。	保護者様からのお悩み、ご相談等への対応は迅速に行っている。成功事例等を共有するなどの工夫も実施していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	6	6		コロナ禍は積極的にできなかったため、状況を見て計画、実施していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	16	1	0	苦情発生時の対応整備はされており、組織的に対応できている。	今後も対応マニュアルを会議、研修等で周知していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	11	4	2	手紙やアプリ等で共有している。活動計画や実施後の報告はブログに掲載している。	アプリを今後も活用し体制を強化していく。
	35	個人情報に十分注意している	16	1	0	適切な対応を行っている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	14	3	0	意思疎通の難しい児童について、その日の排泄状況、体調等の変化、様子を細かく保護者と申し送りを出来る様な仕組み、体制を整えている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	6	5	地域の活動を取り入れている。	事業所への招待はコロナ禍で行えていなかったため、状況に応じて行っていく。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時 等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	11	4	2	契約時、入社時に説明している。	契約時、入社時のみだけでなく、定期的に説明していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	14	3	0	年に2回以上の訓練実施のほか救命等技術の研修会も行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	15	2	0	毎月実施しているほか、研修会の案内をしている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	12	4	1	やむを得ず行う場合は時期、方法等を上長協議ののち保護者への説明、役所等への届け出を行いサービス計画に付している。	協議にひろく職員の意見も取り入れていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	8	2	個別ファイル等で共有。	アレルギー児童はいないが今後、該当する場合は共有方法を強化していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	8	2		作成をしているが事例集として確立していないため、整備していく。